研修の概要（柳井市立新庄小学校）

１　研究主題について

各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業づくり
～「深い学び」の実現をめざして～　３年次

２　主題設定の理由

昨年度、一昨年度は、「深い学び」に焦点を当て、「各教科の特質に応じた『見方・考え方』を働かせる授業づくり」に取り組んだ。

「各教科の特質に応じた『見方・考え方』を働かせる授業づくり」については、新学習指導要領にも「深い学びの鍵として『見方・考え方』を働かせることが重要になる」と記載されている。一昨年度、昨年度は一人１授業で指導案を作成する際に、学習指導要領で各教科の特質に応じた「見方・考え方」を確認し授業づくりを行った。日々の授業で日常的に「各教科の特質に応じた『見方・考え方』」を学習指導要領で確認するということは難しいことであった。が、「見方・考え方」を働かせた授業作りに対する意識は高まってきている。そこで、今年度は、今後さらに日常化を進めるために、「『見方・考え方』とは」という基本的な部分を確認しながら、「手立て」を共有していくことで「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせる授業づくり」に取り組んでいきたい。

３　育てたい児童像

「主体的・対話的で深い学び」とは　（「中教審答申」より）

①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」

②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えを深めること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」

③習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」

（主体的な学び）

・興味関心をもって積極的に取り組む児童。

・学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりする児童。

（対話的な学び）

・先生や友だちと対話したり、先哲の考え方を手掛かりにしたりすることによって思考を広げ深めていく児童。

（深い学び）

・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、身に付けた「資質・能力」を活用、発揮し、これまでの学びを確かなものにする児童。

４　研究内容

（１）　研究仮説

各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業づくりを行うことによって、「深い学び」を実現できるのではないだろうか。

（２）　主題解明の手立て

以下３点について確認していく。

①各教科等の特質に応じた「見方・考え方」について

②「見方・考え方」を働かせている児童の具体的な姿

③「見方・考え方」を働かせるための具体的な手立て

５　研究方法

（１）重点取組項目の設定　　＜余新３校での共通取組事項＞

○めあて・課題設定の工夫

○「ふりかえり」の時間の確保

○効果的な対話場面の設定

（学習四針）

○聞き方

→対話するための「聞き方」

（２）一人１授業公開

○全員が１授業を公開する。

○全体授業以外の公開授業は、（低・中・高学年）ブロック内で参観する。

○授業前、または授業後に研究協議を行う。

○全体授業以外の公開授業は、授業を行う日程を前週に知らせる。
前日までに指導案を配布しておく。

○授業者はまとめて考察を書く。（「一人１授業のまとめ」　２月中旬提出）

７　校内研修実施報告

月	研　　修　　内　　容	
	校内研修（◇授業力向上　○学力向上　・その他）	その他の研修
４／２１　①	◇研究主題・研究内容・仮説などの検討、共通理解 ◇研修活動計画の立案・確認 ○本年度の学力向上の取組について ○家庭学習の手引きの見直し	
		・市教研（５／１０　柳井小） ・救急蘇生法研修（５／２０）
６／１０ ②	◇全体授業①　授業・協議 大田　慶子　先生　理科「ゴムや風の力」	
７／２６④ ７／２７⑤	・服務研修（校長） ・特別支援教育　等の研修	・市教研教科・分野別部会（７／２９）
８／２６⑥	・復伝（教育課程　等） ・人権教育の研修 ◇ipad 研修	・やない教育の日（８／１８）
９／２２⑦	◇余新合同授業研究会（余田小）	
１０／２９ ⑧	◇全体授業②　授業・協議 髙松　寛志　先生　算数「単位量あたりの大きさ」 ○学力定着確認問題　まるつけ　等 ○前期学力向上プランの評価・後期学力向上プラン作成	
１１／１０ ⑨	◇全体授業③　授業・協議 珠山　源章　先生　算数「三角形と四角形」 （克己堂を兼ねる）	・市教研授業研究会（１１／１７）
１／２０⑩	◇初任研　授業説明	
２／１７　⑪	◇本年度研修のまとめ	

実践事例【全体授業③】　珠山源章先生　第２学年　算数科「三角形と四角形」

研究協議より **良かった点**

＜導入＞　既習事項の確認　児童の意欲向上

図形クイズ

前時までの学習の想起、共有、意識化に効果的だった。
図形の定義や性質が頭にしっかり入っていた。
「辺の長さ」「頂点の数」「直角」に着目できていた。
理由を徹底して説明させることでどこに着目して図形を捉えたら良いかを共有することができていた。

板書での視覚的支援　３つの図形

３つの図形の特徴を黒板に提示していたので
分らない子でも視覚的に捉えられていた。
図形に名前をつけるなど、児童が特徴を覚えやすくしているのがよい。

みかちゃん（「見方」のキャラクター）

子どもたちが日頃から意識して取り組めるのは、とても良い。

＜課題解決＞　家庭と学校のつながり

画像での宿題

家庭での発見を共有することで、視野が広がった様子がうかがえた。「たしかに」「本当になっている」
身近にある図形を写真に撮ることで、図形に興味をもったり、身近な物を図形としてとらえたりすることができていた。
宿題で調べてきた画像に直角の印がついており、数学的な見方が身についていた。

タブレット活用の積み重ね

不具合が出たときにも冷製に対応している先生の度量と、それに応える児童の意欲がすばらしい。
不具合が出た時に児童が落ち着いて対応していた。
継続的なジャムボードの活用をしていて、子どもの操作の仕方もスムーズであった。

＜ふりかえり＞　形を図形としてとらえる見方を鍛える

体育館にはどんな図形があるかな？

身の回りにあるものには、学習した形がたくさんあることを振り返れる良い機会になっていた。
意欲的に見つけようとしていた。

研究協議より **改善案**

<導入>めあての設定

視点の必要性
「見つけよう」ではなく、「仲間分けをしよう」の方が視点の必要性が出てくる。

<問題解決>ICT のスムーズな活用のために

どこまでを事前にさせておくか。
ジャムボードに写真を貼り付けるところまでをしておく。「気づき」を入れるところからの一人学びだとスムーズに進むのではないだろうか？

<課題解決>　図形の確かめ方

正方形と長方形の辺の長さを確認する。
・見た目だけでは、曖昧な物があった。きちんと確認した方がいいのだろうか？

直角三角形の写真を撮る時、直角のものを置いて撮る。

指導助言　山口県ひとづくり財団　　主査 藤永 靖彦 様

〇算数科の特質より

☆「いろいろあっておもしろい」が大事
　多様性の尊重　ひととちがっておもしろい。→だから集団で学ぶ意味がある。

☆「気づく」「見つける」喜びを味合わせる。→ 「気づく」「見つける」場面をつくる。

〇「見方・考え方」について

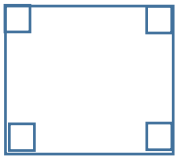
☆1 年から 6 年の間に、観点を増やしていく。
例　<図形> 「どうやって分けたの？」「辺の長さがすべて等しい」→分ける方法について考えさせる。
　<数と計算>「どのように計算したの？」「別々に計算して後でたす。」→計算方法について考えさせる。

観点に気づける授業を！！
A くんが見つけた観点を B くんにも気づかせたい。

○子どもの理解を深めるための視覚化

☆定義のおさえかた　言語と視覚でおさえる。

「角がみんな直角になっています。」



←図で記憶に残す。

☆話を具体的化・視覚化させる。→「ここ（直角）が・・・」 指示棒で指し示しながら発表させる。

○ICT の時代だからこそ、心のトレーニングを！！

☆温かく応答する。→応答するやりとりをつくるには・・・

→「聞いてください。」問いかけるように話す。

☆まず、先生が心からの反応を！ 先生が温かく反応する。

→先生の反応が子ども達の鏡になる。

珠山先生、全体授業、ありがとうございました！これまで珠山先生が子どもたちと積みあげてこられた成果が子どもたちの姿にあらわれていた素晴らしい授業だったと思います。たくさんの参観者がいる中でも、子ども達は落ち着いて取り組んでいました。

これまでの、低学年ブロックの先生方の熱心な指導案検討、ありがとうございました。

「みかちゃん」登場！

キャラクターが登場するとは・・・。さすが珠山先生！！子ども達が楽しく、大事なことを意識できる工夫が素晴らしいです！わたしたち教師が「見方・考え方」を意識するだけではなく、子ども達に「見方・考え方」を意識させることが次なるステップではないかと思っています。みかちゃんが登場した時は、目からうろこでした。

そして、子ども達の中に図形の定義がしっかり定着していたことが、本時の主眼達成の重要なポイントだったと思います。しっかり定着していたからこそ、自分が見つけた図形の紹介や体育館の中から図形を見つける活動に子どもたちは生き生きと取り組めていたのだと思います。図形のどこに着目するのかを子どもたちが明確にもって学習できていました。

タブレットを使いこなす技能が身についているのはもちろん、トラブルにも落ち着いて対応できる２年生の頼もしい姿を見せてもらいました。ICT に苦手意識をもつ私ですが、「よし、がんばって、使ってみよう・・・」率直に思いました。「できそうなことから、やってみる。使ってみる。」大切ですね。当たり前のことですが、使うことで使えるようになる。2年生の姿は、何よりも説得力がありました。写真を貼り付けようとしてもうまくいかない・・・いったん諦める。しばらくしてまたトライ・・・やっぱりできない。たくさんの参観者がいる中でも、パニックになることもなく、落ち着いて対応する姿に脱帽！！でした。タブレットを使いこなせることで、家庭での発見を共有することができ、さらに図形に興味をもち、身近な物を図形として捉えようとする姿を見ることができました。

「見方・考え方」を働かせることが授業の目標ではありません。「見方・考え方」を働かせて、子どもたちに身につけさせたい力があります。身につけさせたい力（ゴール）が扉の向こうにあって、その扉を開く鍵が「見方・考え方」になるのではないでしょうか。

先日の県教委訪問で「先生方が焦点をしぼって、授業づくりをされていることが伝わってきます。」ということを言われていました。先生方が大事なポイント（「見方・考え方」）を意識して、授業されていることを見ていただけたのは、大変うれしいことです！！